

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年10月6日
岡谷市教育委員会

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策や教育活動の改善に役立てるために、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。（本年度は4月18日実施）

1 調査の目的（文部科学省による調査）

- ◇国の義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等（調査問題では①と②を一体的に問うこととする）

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

3 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）

【教科に関する調査】

- 小学校では、国語・算数ともに平均正答率は県・全国と同程度となっています。
- 中学校では、国語の平均正答率は県・全国と同程度、数学、英語はやや下回っています。
- 小学校、中学校ともに正答数のばらつきが小さく下位層が少ない一方で、上位層も少ない傾向にあります。

【質問紙調査】

- 小学校、中学校ともに、基本的な生活習慣（朝食、就寝・起床時刻等）についての質問項目で肯定的回答が多く、生活習慣が安定していることがうかがえます。また、特に小学校において「自分にはよいところがある」「人が困っている時は、進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけない」という回答が多いことから、基本的な生活習慣の安定が自分も相手も大切にする心の醸成につながっていると考えられます。
- 小学校、中学校ともに、「先生はあなたのよいところを認めてくれる」という回答が多く、教師と児童生徒がよい関係性を築く中で、学校生活を送ることができていることがうかがえます。
- 特に小学校では、「読書が好き」と回答した児童生徒の割合が多く、小学校、中学校ともに、「全く読まない」と回答した児童生徒の割合が減少しました。
- 特に小学校において「計画を立てて学習している」と回答した児童が増加しました。また、国語、算数・数学の各教科について「勉強が好き」と回答した児童生徒が多く、前向きに学習に取り組んでいる様子が見えます。
- 小学校、中学校ともに、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた」と回答した児童生徒が多く、各学校において主体的・対話的な学びが行われていることがうかがえます。
- 小学校で「英語の勉強は好き」と回答した児童が多かった一方で、中学校では「好き」と回答した生徒が少ない傾向が見られます。

4 分析結果をふまえた今後の取組

学校で	<ul style="list-style-type: none"> □岡谷スタンダードカリキュラムの実践による探究的な学習や協働的な学びを充実させ、<u>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を一層進めるとともに、個別最適な学びを充実させ、個々の興味関心や学び方に応じた、個に寄り添い一人一人を伸ばす学びを推進してまいります。</u> □英語だけでなく各教科において<u>学びのつながりを意識し、小中が連携した指導を進めていきます。</u>
家庭で	<ul style="list-style-type: none"> □読み聞かせや、親子で読書する時間を設けるなど、様々な本に親しむ機会を意識的に作りましょう。 □家庭学習については、授業と結びつけた内容（予習・復習）や、疑問や課題を解決したり自分の興味関心を伸ばしたりする自主学習などに、<u>自分で計画を立てて取り組めるようにすることが大切</u>です。より一層充実した家庭学習となるよう応援をお願いします。